

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071900791		
法人名	有限会社 西日本在宅介護センター		
事業所名	グループホーム 見立		
所在地	〒826-0041 福岡県田川市大字弓削田3251番地	Tel	0947-42-8817
自己評価作成日	令和元年07月26日	評価結果確定日	令和元年09月04日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号	Tel	093-582-0294
訪問調査日	令和元年08月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

玄関先にはいつも花が有ります。又、夜勤二人体制なので利用者の方は不安無く過ごされています。家族の方にも安心していただけるように心がけています。医療に対しても看護師が勤務している為主治医との連携もとれ医療的な相談にも対応して安心していただいています。職員は、20代から70代と幅広く家庭的な職場で、いつも笑い声が絶えません。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「見立」は、田川市郊外の住宅地の中に溶け込むように建つ、1ユニット定員9名の民家改修型のグループホームである。開設17年目を迎え、管理者を始め、経験の長い職員が多く在籍し、互いに補い合っけきめ細かなチーム介護に取り組んでいる。看護師を配置し、家族と協力しての受診、ホーム協力医による往診、夜間の緊急時の対応等安心の医療体制が整い、本人や家族の要望に応じて看取りも行っている。中庭の畑では、土いじりを好む利用者と職員がトマトや胡瓜、茄子等、季節の野菜を育て、収穫された野菜を利用して職員が作る美味しい食事は、利用者一番の楽しみであり、職員の明るさで行き届いた接遇、声掛けにより利用者の笑い声が響いている。また、平成25年度から夜間職員2名体制を継続して利用者、家族の不安を取り除き、家族の評価も高い、グループホーム「見立」である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
62	利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の再検討を考え全職員で検討中。	ホームが目指す介護理念を見やすい場所に掲示し、利用者が家庭的な環境の中で安心して日常生活を送ることが出来るように取り組んでいる。経験年数の長い職員による優しい声掛けと寄り添う支援が、利用者の穏やかな暮らしに繋がっている。	申し送り時に理念を唱和する等して理念の共有を図り、実践に繋げていく事が望まれる。また、理念を基に、月の目標、個人の目標を定め、具体的な取り組みを期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の神幸祭など獅子舞の訪問有り又、地域に有る同一法人のデイサービスとの交流と老人会にも参加している。	地域との繋がりが深く、神幸祭や獅子舞の訪問等、地域の方からの声がかかりで実現している。近隣の同一法人のデイサービスの行事に参加して、老人会との交流が行われている。利用者の重度化や職員の勤務体制で、日常的な交流が難しくなってきている。	運営推進会議に参加の地域代表の協力を得て、地域の情報を把握して、行事や活動に参加する等、地域の一員としての交流を広げていく事を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の老人会に参加などして活かしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者のサービス状況を報告し、参加委員の意見やアドバイス又、質問などされその内容を活かし、研修やサービス向上に活かしている。	運営推進会議は2ヶ月毎に開催し、利用者の状況、行事、取り組みについて報告を行い、参加委員からは、質問や意見、情報提供を受け、サービスの向上に活かしている。また、会議がマンネリ化しないように、新しい議題や内容を検討し、参加委員の増員に向けた取り組みを行っている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議参加の地域包括支援センター職員に疑問が有る時は相談し、事故や空き状況は報告している。	運営推進会議に地域包括支援センター職員の参加があり、ホームの実情や取り組みを伝え、助言や情報提供を受け、協力関係を築いている。管理者は、疑問点や困難事例について行政担当窓口相談し、事故や空き状況を報告している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	徘徊される入居者がいるため玄関は施錠している。玄関は車の通りがあり、家族や職員と話し合い入居者の安全を図る為施錠を行う。中庭には自由に出入り出来る。	身体拘束廃止についての職員研修が義務化され、内部勉強会の中で、ベッド柵の取り組みや言葉の抑制について等、具体的な議題を挙げて話し合う等、職員間の正しい理解に努めている。また、運営推進会議の中で、身体拘束適正化委員会の取り組みを報告している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員虐待防止に心がけ、勉強会にも課題にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	成年後見制度について学ぶ機会を持ち、必要性のある関係者に対し、活用できるように努力していく。	権利擁護の制度について学ぶ機会を設け、職員間で共通理解に努めている。必要時にはその都度対応し、制度を利用するための申請の手続きや、関係機関に対して橋渡し出来る体制を整えている。現在、日常生活自立支援事業や成年後見制度を活用している利用者はいない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者と家族の不安や疑問点を尋ね、それに対して十分な説明をした理解・納得を図る。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時に苦情や要望を受け入れ又、面会が困難な場合は電話連絡の時に要望など受け入れてホーム運営に反映させる努力をしている。	日常の関わりの中で、職員は利用者の思いや意向を聴き取っている。家族の面会時に、職員がコミュニケーションを取りながら、家族の意見や要望、苦情等を聴き取っている。面会が難しい家族には、電話連絡の中で要望を聴いている。	行事を兼ねて、家族が集い、交流する機会(家族交流会)を設けたり、ホーム便りを作成し、利用者の健康状態や暮らしぶりを伝える等、より深い信頼関係を築くための取り組みを期待したい。
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送り時に職員の意見や提案など聞き実行し、結果が悪ければ再度話入居者の事を考え職員同士意見交換する。	一日4回職員間で申し送りをを行い、メモを見える所に貼る等して、情報の共有と意見交換に努めている。夜勤者2名体制で、夜間帯に余裕があるため、夜勤者が日勤帯の仕事を手伝う形で協力しようとの提案や要望を受けて管理者が集約出来る事から、反映出来るよう取り組んでいる。	職員が多く集まることのできる日時を工夫し、定期的に職員会議を開催して、法人本部の決定事項を伝えたり、職員間で意見交換する機会の確保が望まれる。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見を聞き希望どなりに近い条件に向けて整備できるよう努める。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	能力が有れば年齢制限なし。又、勉強会など希望が有れば優先させる。	職員が向上心を持って働けるように、外部研修受講や資格取得のための支援体制を整えている。家庭と仕事を両立出来るよう、勤務形態を多様化したり、急な休みが取りやすい職場環境を整えている為、職員が定着している。職員の募集は、働く意欲があり健康であれば、年齢、性別、資格等の制限はしていない。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入居者の人権を尊重する事は職員全員で心がけている。	利用者の人権を尊重した介護の在り方を、職員間で話し合い、利用者一人ひとりの個性や生活環境を把握し、常に自分に置き換えて考えながら、利用者の人権を守る介護サービスに取り組んでいる。言葉遣いや対応に注意し、馴れ合いにならないように、気づいたらその都度注意し合っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員全員法人内外で研修を受けさせ又、力量を把握し、働きながらのトレーニングを実施。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者と交流を持ち、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コミュニケーション作りに努力し又、入居者の人材を把握し何を望んでいるかつかみ取る。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期の段階で家族が困っている事を尋ね不安や要望に対し、安心していただける様にサービスを導入する。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者に対してのサービスがどの程度まで必要性があるか見極め、家族と話し合うように努める。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることは協力していただき日常生活の中で共有できることを探し、少しでも満足していただきたい。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者と家族の絆を壊さないように努力して、共に支援して連携を保っていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	大切にしてきた馴染みの方や場所などの把握をし、一緒に共有できるように努力する。	利用者の友人、知人の面会が多く、ゆっくり寛げる場所やお茶等を提供し、訪問しやすい雰囲気作りを心掛けている。法人内のデイサービスから入居の利用者も数名いる事から、デイサービスとの交流も心掛け、利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの関係が継続出来るように取り組んでいる。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	女性同士や又、女性と男性と気が合う者同士会話が弾み、口腔ケアなど洗面上まで一緒に行かれています。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	出来る限り努力して活きたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何事も入居者の要望を聞き、実行できることはさせていただく。無理難題の時は家族に相談したり、時間をかけて話し合うよう努める。	職員は、ホームの生活の中から、利用者の思いや意向の把握に努め、家族と相談し、実現に向けて支援している。意向表出が難しい利用者には、家族やベテラン職員から情報を収集して話し合い、職員が寄り添いながら、利用者の表情や仕草から思いを汲み取る努力をしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や生活環境を把握してサービス提供できるように努める。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	午前・午後・夕方と申し送りを実施、一人ひとりの状況を把握できるように努める。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全職員の意見と家族の面会時や電話などで、入居者とそれぞれの意見・要望を話し合い現状に即した介護計画を作成している。	本人の希望、家族の要望を聴き取り、申し送り時に職員が意見、気づきを出し合って計画作成担当者に伝え、介護計画を半年毎に作成している。また、利用者の状態変化に合わせて家族に密に連絡し、主治医の意見を聴きながら、その都度、介護計画の見直しを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や申し送り時を利用し、情報を共有して実践や介護計画見直しに活かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に合わせ柔軟な支援に取り組む努力をしている。特に家族の要望などは、支援サービス提供に取り組む。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の入居者は同級生と食事会に年数回行かれている又、他の入居者は、自宅に外泊されたとき、地域の方と集まって楽しいひと時を過ごされている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人のかかりつけ医に往診依頼している。その為事業所看護師と医との連携がとれ、家族の連絡もスムーズにとれている。	利用者や家族の希望を優先して主治医を決めている。入居前からのかかりつけ医の受診や往診、ホームの協力医による定期的な往診と夜間、緊急時の対応、看護職員と介護職員の連携により、24時間、安心の医療体制が整っている。利用者の受診結果は家族に報告し、情報の共有に努めている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は看護職に常に入居者の状況を報告し又、アドバイス等受け、入居者の適切な受診や看護を支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院と情報交換し、安心して治療できるように又、早期退院できるようにカンファレンスなど実施。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に終末期の意向確認書と看取り介護の指針を十分に説明し又、重度化した時には、再度十分に確認をとって家族が悔いのないようにし、地域の医療機関と関係者で連携をとる支援の取り組みをしている。	契約時に、指針を基にホームの方針を説明し、同意を得ている。利用者の重度化に伴い、家族と密に連絡を取りながら、何度も確認を取り、主治医を交えて話し合い、関係者で方針を共有している。ホームで最期まで見て欲しいという家族からの要望があり、条件が整えば看取りを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	室内研修を行い看護師とともに訓練を実施。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練実施と運営推進会議の地域医院と連携をとり協力体制をとっている。	防災訓練を年2回実施し、1回は消防署の参加と指導が行われている。夜間想定を含め、通報装置や消火器の使い方、避難経路、非常口、避難場所を確認し、近くに住む職員や地域住民との協力体制を確立している。利用者全員が安全に避難出来るように職員間で何度も話し合い、1ユニットであるが、夜勤者2名体制で取り組んでいる。災害時に備え、非常食、飲料水の準備をしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	情報漏洩防止に全職員は取り組んでいる又、個々の状況を把握して人格を尊重し、プライドを傷つけないよう職員全員が対応できるように努力している。	利用者のプライバシーを尊重する介護サービスについて、職員間で話し合い、利用者のプライドや羞恥心に配慮した声掛けや対応等に取り組んでいる。また、利用者の個人記録の保管や職員の守秘義務については、日頃から管理者が職員に説明し、情報漏洩防止に努めている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	中庭にて野菜作りを希望され種や肥料など色んなことを示される。又、書き物をされる為紙やボールペンなど希望される。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者が中庭に野菜を植えたいと要望があり、職員と一緒に毎日草取り・水やと肥料・野菜の収穫など又、収穫した野菜をその日のうちに料理して、中庭できた野菜を楽しんで撮られています。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一日に数回着替えられています又、ヘアピンなど綺麗なものを付けられる。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきなど下ごしらえや、食後の食器かたづけなどしていただく。	中庭の畑でトマトや胡瓜、茄子、オクラ等、季節の野菜を育て、収穫した野菜を採り入れて、職員が交代で作る美味しい食事を提供している。利用者の残存能力に合わせ、野菜の皮むきや炒めたりの作業の手伝いをお願いし、頼りにされる事が利用者の生きがいに繋がっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	胃を手術された方は少量で又、一食の時間が長い方がおられる。その為水分や栄養バランスが摂れるよう全職員で情報を共有して支援する。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後と就寝前口腔ケア実施。自力で出来ない方は介助している。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	食事やおやつ前など排泄の声掛け実施又、それ以外でトイレ移動されているときトイレの外から声掛けしてパットなどの汚染が無いか確認し介助する。	利用者が重度化してもトイレで排泄を基本とし、職員は利用者の排泄パターンや生活習慣を把握し、タイミングを見ながら声掛けや誘導を行い、トイレでの排泄の支援に取り組んでいる。歩行が困難な利用者に対しても、出来るだけトイレに誘導したり、ポータブルトイレを使用する等、利用者一人ひとりに合わせた排泄の支援に取り組んでいる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に合わせ食事・水分・牛乳・ヨーグルト・青汁などから便秘の改善心みる。又、腹部保温湿布・マッサージなど実施。下剤しか駄目な方は服用します。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	以前は午前中だけ毎日入浴実施していましたが、入浴の人数に限られるので、不都合があり、入居者のタイミングで入浴実施また、便失禁などされたときはすぐ入浴します。	利用者の希望や健康状態をチェックして、一人ひとりに合わせた入浴支援となっている。浴室のバリアフリーを整え、利用者が安全に入浴できる環境を整え、楽しい時間が過ごせるよう配慮している。また、入浴が困難な利用者には、時間をずらしたり、職員が代わって声かけし、無理のない入浴の支援に取り組んでいる。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者が午前・午後と又、就寝時など自由にされています。食後必ず30分は休まれるかたが居られます。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が入居者の服薬を把握し、体調の変化で薬変更のときは申し送り時に伝え、必ず薬箱にメモをする。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	中庭で畑作業して気分転換される。転倒の心配があるので必ず職員同行する。毎日ボールペンと紙を持って書き物をされたり、入居者や職員の似顔絵を描いてプレゼントされていめす。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	5月まで居られた方は、劇場にお芝居鑑賞又、他の方は毎週息子さんが迎えに来られ外泊。又、地域の同級生と年数回食事会に行かれています。	利用者の重度化が進み全員で外出する事は難しくなっているが、春、秋には花見を行い、ホームの庭に出て花を眺めたり、摘んだりすることが利用者の楽しみになっている。同窓生の集まりに参加したり、家族と美容院や外出に出かける等、個別に出かけられるよう支援している。また、近くの同法人のデイサービスの各種行事に参加している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	劇場に行って支払いをしたり、花見の帰りにスーパーに寄り好きなものを買って、支払いをして満足されていました。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族が携帯電話を持たせ毎日電話している。又他の方は知人はがきで便りが有り返事をかいています。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の花を飾り、室内は季節の飾りつけをしている。、行事の時は食事などで楽しんでもらう。気候の変化がある時は室温調整などしている。食事の時間は音楽を流す。	民家を改築した木の温もりを感じる家庭的なホームである。季節の花を生け、鮮やかな緑の中庭を眺めながら、利用者が季節を五感で感じられる家庭的な環境である。屋内を季節毎に飾りつけ、ソファが置かれた共用空間では、利用者が思い思いの場所で寛ぐ姿が見られる。建物内は清掃が行き届き、室温や明るさにも配慮された居心地の良い共用空間である。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合ったもの同士ソファに座りテレビ鑑賞や会話が弾んでいます。男女関係なく気が合っています。又、一人で書き物をされる方もいます。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇を持って来られ毎日お参りされる。又家族の方が少しでも居心地が良いようにと椅子やテーブルを持って来られている方も居られます。	入居時に利用者や家族と話し合い、利用者が大切にしている使い慣れた馴染みの家具や仏壇、家族の写真や小物類を持ち込んでもらい、利用者にとって居心地の良い居室になるよう配慮している。民家改造型のホームで、畳や障子のある部屋が多く、利用者は中庭を眺めながら、自宅と違和感のない落ち着いた暮らしを過している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	夜間転倒防止の為ポータブルトイレ使用していません。家族ともに話し合っています。トイレ、食堂、談話室、浴室は声かけすると自立で移動出来ています。自室前に写真を貼っていたがどなたかが、持って行かれた。		